

国土交通省

# バリアフリー化推進功勞者 大臣表彰式



令和6年3月



国土交通省

【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号  
国土交通省総合政策局バリアフリー政策課 TEL: 03-5253-8111 (代)

この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。



国土交通省

# 目次

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| プログラム   | 2                              |
| 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について                             | 3                              |
| 講評  | 4                              |
| 秋山 哲男 委員 (中央大学 研究開発機構 教授)                             |                                |
| 高橋 儀平 委員 (東洋大学 名誉教授)                                  |                                |
| 新田 保次 委員 (大阪大学 名誉教授)                                  |                                |
| 河野 康子 委員 (一般財団法人 日本消費者協会 理事)                          |                                |
| 受賞者事例報告   |                                |
| ・市内 31 駅周辺の一体的整備プログラム策定と<br>鉄道事業者及び地域との連携によるバリアフリーの推進 | 5<br>(姫路市)                     |
| ・多様な乗船客に対応した、新造船と<br>フェリーターミナルのユニバーサルデザイン化への挑戦        | 7<br>(株式会社商船三井・株式会社商船三井さんふらわあ) |
| 選考委員紹介  |                                |
| ・「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」の今後の課題                      | 9                              |

## プログラム

令和6年3月26日(火)

### ● 選考委員からの講評

|                |         |
|----------------|---------|
| 中央大学 研究開発機構 教授 | 秋山 哲男 氏 |
| 大阪大学 名誉教授      | 新田 保次 氏 |
| 東洋大学 名誉教授      | 高橋 儀平 氏 |

### ● 受賞事例報告 ～受賞者より～

#### 姫路市

##### 【市内 31 駅周辺の一体的整備プログラム策定と鉄道事業者及び地域との連携によるバリアフリーの推進】

市内に 31 ある鉄道駅の中にはバリアフリー化の点で課題の多い駅が多くあったことから、姫路市では、計画的かつ効率的にバリアフリー整備を進めるため、全 31 駅を対象に整備すべき内容や改善すべき優先項目を盛り込んだ「鉄道駅周辺整備プログラム」を策定し、鉄道事業者をはじめ地域住民や地元企業と連携・協力することにより、鉄道駅のバリアフリー化のみならず、駅周辺の利便性向上と持続可能なまちづくりに取り組んだ。

#### 株式会社商船三井・株式会社商船三井さんふらわあ

##### 【多様な乗船客に対応した、新造船とフェリーターミナルのユニバーサルデザイン化への挑戦】

株式会社商船三井と株式会社商船三井さんふらわあは、大阪～別府航路で運航する「さんふらわあ くれない」及び「さんふらわあ むらさき」(船主：株式会社商船三井)の建造にあたって、利用者アンケート結果や障害当事者の乗船体験時等にいただいた意見を反映し、様々な乗船者が安心して船旅を楽しめるよう、バリアフリー整備を実施した。

また、新造船就航に伴い、誰もが使いやすくスムーズな乗船の実現を目標として、別府国際観光港にユニバーサルデザイン化を目指して新たなフェリーターミナルを整備した。

### ● 表彰状授与式

## 国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第17回となる今回も、推薦された取組の中で特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

### 表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

### 選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

### 国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男 中央大学 研究開発機構 教授  
高橋 儀平 東洋大学 名誉教授  
新田 保次 大阪大学 名誉教授  
河野 康子 一般財団法人 日本消費者協会 理事

### 第17回受賞者の決定

13候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、2件の受賞者を決定しました。

第17回となる今年度の表彰においては、全国各地から13件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全13件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄道駅施設・宿泊施設・公園遊具といった公共交通や建築物等についてバリアフリー化を進める取組みが見られるほか、障害者等への接遇向上を図るための講習・検定を実施するソフト面での取組みなど、きめ細かなバリアフリー化を進める取組みも見られます。

また、障害者等のバリアフリー化のみならず、子育て支援施設の整備や子育て中の女性が働きやすい環境整備など、子育てしやすい環境づくりに資する取組みもみられるところです。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「姫路市」は、市内31ある鉄道駅を一体的に整備する「鉄道駅周辺整備プログラム」を策定し、安全性などを考慮し優先順位をつけながら、駅周辺のバリアフリー化や利便性向上を推進しました。なかでも、太市駅においては、鉄道事業者、民間企業、地域住民、姫路市の4者が連携して、老朽化した駅舎をコンパクト化するとともに、駅前に民間企業が新社屋を建設し、駅利用者が利用可能な待合所やバリアフリースイッチを提供することとしたほか、カフェや特産物の販売イベントを開催するなど、バリアフリー化に加え持続可能な地域の活性化が図られています。今後、他の都市においても模範となりうる先進的な取組みであることを評価し表彰することとしました。

「株式会社商船三井・株式会社商船三井さんふらわあ」は、大阪～別府航路で運航するフェリーの新造船建造にあたって、利用者アンケート結果や障害当事者の声を反映し、バリアフリー整備を実施しました。また、新造船就航に伴い、誰もが使いやすくスムーズな乗船の実現を目標として、別府国際観光港にユニバーサルデザイン化されたフェリーターミナルを整備しました。障害当事者等の意見を反映させながら高水準なバリアフリー整備を行い、今後建造されるフェリーやフェリーターミナルの模範となりうる内容であることを評価し表彰することとしました。

今回ご推薦いただいたもののなかには、興味深い取組みであるものの、近年開始したばかりで、まだ利用者等の評価が十分になされておらず、残念ながら今年度の受賞とはならなかった取組みもありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>

### 講 評

鉄道駅およびその周辺のバリアフリー整備は、基本構想などに基づき順次進められているが、地方部においては困難を抱えているところも多い。このような状況下において、姫路市では、利用者数の少ない駅も含めた、市内 31 駅を対象とした整備プログラムを策定し、面的整備の重要な柱にバリアフリー化を位置づけ、移動の利便性の向上を図るとともに、地域活性化のまちづくりに取り組んでいる。さらに、各駅周辺の取組みにおいては、地元のまちづくり協議会を通じて、地域住民や企業が市、鉄道事業者と連携することにより、ユニークな取組みを展開している。特に、地元企業が社屋の一部を駅待合所に使えるようにしたり、バリアフリートイレを開放したりしている点は注目に値する。以上、市内の全駅を対象にバリアフリー化に取り組んでいる点、および市、鉄道事業者が地域の住民、企業と密接に連携し事業を進めている点を高く評価し、本事例は国土交通大臣表彰として極めて相応しいものと認められる。

### 受賞者の取組み

#### <取組みの概要>

姫路市内に 31 ある鉄道駅の中にはバリアフリー化の点で課題の多い駅が多くあったことから、姫路市では、計画的かつ効率的にバリアフリー整備を進めるため、全 31 駅を対象に整備すべき内容や改善すべき優先項目を盛り込んだ「鉄道駅周辺整備プログラム」を策定し、鉄道事業者をはじめ地域住民や地元企業と連携・協力することにより、鉄道駅のバリアフリー化のみならず、駅周辺の利便性向上と持続可能なまちづくりにも取り組んだ。

#### ●市内 31 駅の効率的な整備を可能とする「鉄道駅周辺整備プログラム」の策定

「鉄道駅周辺整備プログラム」では、市内 31 ある鉄道駅のうち、整備済み及び整備中の駅を除いた 16 駅を今後整備が必要な駅として抽出し、整備内容及び着手時期の目標を定めるとともに、安全・安心に関わる緊急性の高い整備項目を優先的に取組む方針とした。

プログラムを策定することにより、複数駅をパッケージとして鉄道事業者と協議することや、各地域住民及び民間企業とも一体となって検討を進めることが可能となった。

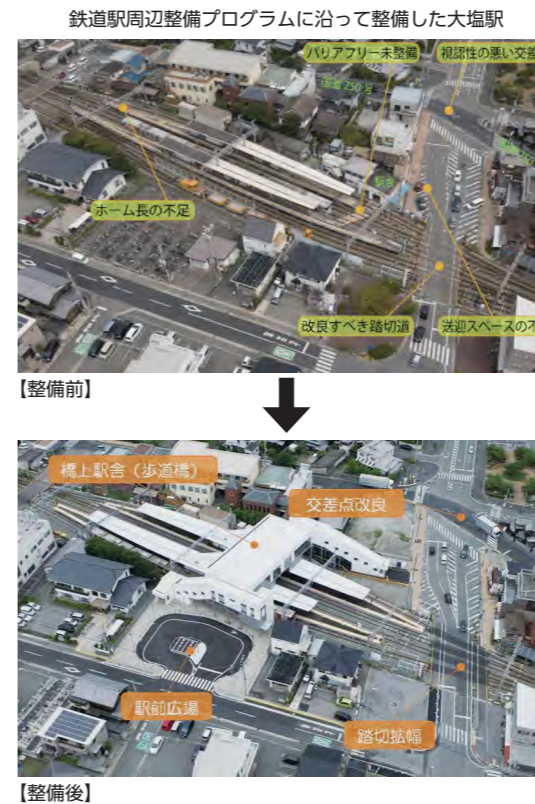


コンパクト化された太市駅の駅舎と隣接する民間企業のバリアフリートイレ



太市駅に隣接する民間企業で開催されているイベント

なかでも、太市駅<sup>おおいち</sup>においては、①老朽化していた駅舎のコンパクト化を計画していた鉄道事業者、②駅前等の立地条件の良い場所への本社機能の移転を計画していた民間企業、③駅周辺のまちづくりによる地域活性化を希望していた地域住民、④鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりを推進する姫路市、の 4 者が連携し、駅舎をコンパクト化するとともに、駅前に民間企業が新社屋を建設し、駅利用者が利用可能な待合所やバリアフリートイレを提供することとしたほか、カフェや特産物の販売イベントを開催するなど、バリアフリー化に加え持続可能な地域の活性化が実現した。



#### ◎今後期待される取組み

本事例は、これからの地域全体を対象とした駅周辺におけるバリアフリー整備の一つのモデルとなりうると思われる。そのような期待を込めて、今後の取組みとして、主に次の 2 点をあげることができる。ひとつは鉄道駅周辺整備プログラムに基づき、バリアフリーの推進を円滑に進めること。そのとき、地域の特性に合わせた 4 者連携の特色ある取組を図っていただきたい。二つ目は、障害当事者等の参加が現時点では十分ではないと思われるので、整備プログラムの具体化にあたっては、高齢者、外国人等を含めた当事者参加の充実を希望する。

### 喜びの声



姫路市 市長 清元 秀泰 氏

#### 【コメント】

この度は、名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。また、関係者の皆様に対し、心より感謝申し上げます。姫路市では、鉄道やバス等の公共交通ネットワークを活かした地域間の交流・連携を図るまちづくりを目指し、交通結節点である鉄道駅周辺のバリアフリー化を鉄道事業者や地域住民、地元企業のご協力を賜りながら進めてまいりました。

この受賞を励みに、今後も地域とのつながりを深め、高齢者や障害者など「だれもが安全で安心して快適に移動できるまちづくりの実現」に向けて、バリアフリー化の推進に一層取り組んでまいります。

#### 【連絡先】

姫路市安田四丁目 1 番地  
TEL 079-221-2586 (鉄道駅周辺整備課)

#### 【活動等の経緯】

- (鉄道駅周辺整備に関する略歴)
- 平成 26 年 4 月 鉄道駅周辺整備の検討開始 (検討委員会の開催、各種調査、パブリックコメントを実施)
  - 平成 28 年 6 月 「姫路市鉄道駅周辺整備プログラム」策定
  - 平成 28 年 3 月 香呂駅・溝口駅周辺整備完成 (駅前広場、両側改札化等)
  - 平成 30 年 3 月 白浜の宮駅周辺整備完成 (エレベーター、自由通路、駅前広場)
  - 令和 3 年 3 月 「姫路市鉄道駅周辺整備プログラム」更新
  - 令和 4 年 3 月 太市駅周辺整備完成 (4 者連携による整備) 飾磨駅北改札口整備完成 (北改札口、エレベーター、身障者乗降場)
  - 令和 5 年 6 月 大塩駅周辺整備完成 (橋上駅舎、自由通路、駅前広場等)

【Web-URL】 <https://www.city.himeji.lg.jp/>

# 株式会社商船三井・株式会社商船三井さんふらわあ 多様な乗船客に対応した、新造船とフェリーターミナルのユニバーサルデザイン化への挑戦

## 講評

近年全国各地の船舶や旅客船ターミナルでは、バリアフリー化が急速に進展している。その中でも本事例は国内における有数の大型旅客船バリアフリーの優良事例として高く評価される。乗船者にとって旅客船は非日常ではあるが一つの住まいであり街でもある。そのため旅客船には乗船者の期待に応えられる様々な難しいバリアフリー化が求められる。客室整備もその一つであるが、本事例では特にタイプ別の客室のバリアフリー化が工夫され、中小の旅客船にも十分に活用できる取組みがなされている。こうしたことが可能となったのは様々な障害当事者等からの意見反映であると認識できる。一方、別府国際観光港旅客船ターミナル整備では大分・別府市内の障害者団体代表らとの協議の場が継続的に設定され、理想的なバリアフリー化の作業が進められたが、本事業を支援した交通エコモ財団との協働作業の効果も記しておきたい。施設のバリアフリー化は法基準に基づくだけでは成立しないことが多く、設計者の工夫や事業者の長期的な取組みが欠かせない。これら二つの優れた事例は、障害当事者のみならず専門的知見のある関係機関、及び事業者の明確な取組み姿勢が一体となって実現したものである。以上から本事例は国土交通大臣表彰として極めて相応しいものと認められる。

## 受賞者の取組み

### <取組みの概要>

株式会社商船三井・株式会社商船三井さんふらわあは、大阪～別府航路で運航する「さんふらわあ くれない」及び「さんふらわあ むらさき」（船主：株式会社商船三井）の建造にあたって、利用者アンケート結果や障害当事者の乗船体験時等にいただいた意見を反映し、可能な限り様々な乗船客が安心して船旅を楽しめるよう、バリアフリー整備を実施した。

また、新造船就航に伴い、誰もが使いやすいスムーズな乗船の実現を目標として、別府国際観光港にユニバーサルデザイン化を目指して新たなフェリーターミナルを整備した。

### ●バリアフリー化されたフェリーによる円滑な移動の実現

障害当事者等からの意見を踏まえ、車いす使用者がスムーズに移動できるよう船内に余裕をもたせており、車いす使用者がターミナルの発券カウンターに立ち寄ることなく乗船を可能とし、座ったまま扉の開閉が可能となる二次元バーコード乗船システムを採用したほか、船内にキッズトイレ、ベビーケアルーム等を整備するなど、新たな取組みと環境整備を積極的に導入した。また、ソフト面においても、スタッフの接客向上を目的とした「フェリーにおける障害者・高齢者対応ガイドライン」の作成に加えて、接客研修を積極的に実施するなど、誰もが安心して乗船できる取組みを実施している。



スイートバリアフリールーム  
二次元バーコード自動開閉ドア



船内ベビーケアルーム



船内デジタルサイネージ



フェリーターミナル内  
バリアフリー駐車スペース



フェリーターミナル内  
バリアフリースイート (多機能)

### ●新ターミナルのユニバーサルデザイン化

新ターミナルの整備にあたっては、障害当事者も参画する協議会を設立し、障害特性ごとにヒアリングを行い、円滑な移動に関する課題及び解決方法について協議を実施した。協議会での検討結果を踏まえ、新ターミナルには屋根付き駐車スペースを整備し、うち2台は駐車・出庫しやすいスルー型としたほか、ベビーケアルーム、補助犬用トイレ、カームダウン・クールダウンルーム等を整備した。

### ◎今後期待される取組み

「さんふらわあ くれない」及び「さんふらわあ むらさき」は、施設の特性上の空間制約がある中で、本格的な旅客船のバリアフリー化を実現した好事例である。ラウンジ、トイレ、客室、通路、レストランなど様々な場面で随所に有益な工夫がみられる。しかし、利用者のニーズは変化する。本事例が全国各地の船舶のバリアフリー化に継承できるよう、さらなるスパイラルアップを図り、情報発信されることを期待したい。一方、旅客船ターミナルの整備は交通施設の一種でもあり、多くの公共交通関連施設のバリアフリー化モデルとなる。引き続き様々な利用者のニーズを受け止め、反映できる取組みが望まれる。

## 喜びの声



株式会社商船三井  
代表取締役 社長執行役員  
橋本 剛 氏

### 【コメント】

この度は大変光栄な賞をいただき心より感謝申し上げます。商船三井グループは、多様な個性と価値観を尊重し、一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮し活躍できる企業グループとして、その事業活動において提供するサービスを通じ、当社グループに関わる全ての人々と共生できる豊かな社会の実現に向け取り組んでいます。

本件は「カジュアルクルーズ」をより多くの皆様楽しんでいただけるよう「人にも環境にも優しい」船旅の提供を志したもので、実現へ向けた関係各位のご尽力にお礼申し上げます。

商船三井グループは今後も一丸となって社会のウェルビーイング向上に貢献してまいります。

【連絡先】 東京都港区虎ノ門 2-1-1

### 【活動等の経緯】

2019年 11月 LNG 燃料フェリー 新造船 2 隻の建造発表 仕様検討開始  
2020年 4月 さんふらわあターミナル (別府) 建替計画検討開始  
2020年 8月 フェリーにおける障害者・高齢者対応ガイドラインを策定  
2021年 1月 別府港 UD ターミナル協議会を設立 仕様検討開始  
2021年 6月 三菱工業株式会社 下関造船所 江浦工場にて1番船「さんふらわあ くれない」建造開始  
2021年 11月 協議会より別府港 UD ターミナル提言書を受領  
2022年 3月 「さんふらわあ くれない」命名・進水式  
2022年 4月 さんふらわあターミナル (別府) 建設開始  
2022年 8月 三菱工業株式会社 下関造船所 江浦工場にて2番船「さんふらわあ むらさき」命名・進水式  
2022年 10月 さんふらわあターミナル (別府) 竣工 障害当事者を対象とした開所前視察会を開催  
2023年 1月 1番船「さんふらわあ くれない」が大分別府航路へ就航 さんふらわあターミナル (別府) 開所  
2023年 4月 2番船「さんふらわあ むらさき」が大分～別府航路へ就航  
【Web-URL】 <https://www.mol.co.jp>



株式会社商船三井さんふらわあ  
代表取締役 社長執行役員  
牛奥 博俊 氏

### 【コメント】

この度は大変名譽ある賞を賜り、感謝申し上げます。日本初のLNG 燃料フェリー就航にあたり、船主の商船三井とともに、すべてのお客様に安心・快適にご利用いただけるフェリーとターミナルを目指した取り組みを進めて参りました。ご連携いただいた公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団様をはじめ、すべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

今後も、弊社が掲げております、移動の時間を「心躍る冒険」に変える「カジュアルクルーズ」をコンセプトとするサービスの進化と、さらなるバリアフリー化に向けて取り組んで参ります。

【連絡先】 東京都千代田区外神田一丁目 18 番 13 号  
秋葉原ダイビル 11 階

### 【活動等の経緯】 (両社共通)

【Web-URL】 <https://www.sunflower.co.jp/top/>

# 選考委員紹介

## 「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」 の今後の課題

秋山 哲男（中央大学研究開発機構）

2007年度に「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」が創設され、今年度は17回目です。受賞した取組みは2023年度で総数68件になり、毎年約4件が賞をいただいています。全体の内容は、交通、駅・道路・まちづくり・建築物とハードに関するものが約76%を占めています。この分野の特徴である地域活動も数は少ないが約9%を占めています。地域別には①北海道・東北、②関東、③中部・近畿、④中国・四国・九州・沖縄がそれぞれ10件以上受賞しています。また全国的なものは7件です。受賞は全国各地域にわたっていること、また、多方面の分野にわたっています。この点からも一定の役割を果たしてきたかと存じます。今後、バリアフリー化推進功労者の賞は、以下の点が重点として考える必要があります。

第一は、国土形成計画で掲げているデジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成に役立つ課題を解決することが求められています。特に、急速にデジタル化社会（DX）が進行し、高齢者・障害者などが取り残されることを防がなければなりません。

第二は、障害者・高齢者を含む多くの方々に有効な、情報のアクセシビリティとユーザビリティ（使いやすさ）の確保です。特に情報化社会があらゆる分野で始まっています。次々に変化する情報のアクセスと使いやすさは喫緊の課題です。

第三は、複数の施設間の連続性のある使いやすいバリアフリー化と安全性の確保です。例えば、連続性については、建築物、道路、鉄道、空港、公園など従来の構造物バリアフリー化に加えて、複数の同一施設間の連続的に使いやすくすること。さらに、異なる施設間の連続的に使えるバリアフリー化を行うことです。

第四は、サービスや支援を受けられるようにするための適切な仕組みやサービスを作り上げて提供することです。さらに、供給主体によってサービスや支援の質が変わらない提供を行うことです。例えば、サービスや支援がAの交通施設とBやCの交通施設が同等のサービスを提供できているかどうかです。

以上の課題の実施は、SDG'sに言われている「誰一人取り残さない」といった「共生社会」がより身近になって行くと考えられます。

## ●選考委員



秋山 哲男 委員  
(中央大学 研究開発機構 教授)



新田 保次 委員  
(大阪大学 名誉教授)



高橋 儀平 委員  
(東洋大学 名誉教授)



河野 康子 委員  
(一般財団法人 日本消費者協会 理事)